

東久留米市緑の基本計画等検討部会 会議録

1. 会議名 第2回東久留米市緑の基本計画等検討部会
2. 日時 令和4年2月1日(火) 午後2時00分から午後4時00分
3. 場所 市役所7階 704会議室A (Microsoft Teams 併用)
4. 出席委員氏名 (敬称略) 杉原弘恭 (部会長)、水戸部啓一、島崎修、菅谷輝美、土屋守久、下村央行、高橋喜代治、大塚ちか子、豊福正己、吉川雅継
5. 欠席委員氏名 (敬称略) なし
6. 事務局職員名 環境政策課長、計画調整係長、緑と公園係長、計画調整係主事、コンサルタント会社 (アジア航測株式会社)
7. 傍聴人 0名
8. 議題
 - (1) 第1回検討部会会議録 (案) の確認 (資料1)
 - (2) 緑の基本計画等策定について
 - 現状と課題の整理
 - ・緑被の経年変化調査結果 (資料2-1)
 - ・現行計画の進捗状況及び評価と施策の点検 (資料2-2)
 - ・新たな関連計画・法制度と見直しの方向 (資料2-3)
 - 現状と課題を踏まえた計画の検討
 - ・第三次緑の基本計画等の構成の検討について (資料2-4)
 - (3) 生きものモニタリングについて
 - ・生きもの調査結果及び前回調査結果との比較 (資料3-1)
 - ・指標種等の見直しについて (資料3-2)
 - (4) その他
 - ・次回の日程について (参考資料)

9. 配布資料

第1回検討部会会議録（案）	資料1
緑被の経年変化調査結果	資料2-1
現行計画の進捗状況及び評価と施策の点検	資料2-2
新たな関連計画・法制度と見直しの方向	資料2-3
他自治体の掲載事例	資料2-3 別添1
第三次緑の基本計画等の構成の検討について	資料2-4
生きもの調査結果及び前回調査結果との比較	資料3-1
生きもの調査経過報告（令和4年2月）	資料3-1 参考資料1
現地確認種目録（H28・R3年度）	資料3-1 参考資料2
指標種等の見直しについて	資料3-2
市民観察による調査結果	資料3-2 別添1・2
第三次緑の基本計画等策定スケジュール	参考資料
委員参考基礎資料	

10. 第2回東久留米市緑の基本計画等検討部会

【部会長】委員参考基礎資料説明

- ・中間見直しの2ページの「施策の関連図」の詳しいものを紹介しておくので、核計画の関連を確認する際の参考にしてほしい。
- ・前回の検討部会で、緑の基本計画にもからむ農地や農業、酪農と温室効果ガスのことがだされたが、気候変動枠組条約の各国報告の扱いは図のようになっているので確認してほしい。なお、気候変動枠組条約は、炭素をキープしているストックの保全と、温室効果ガスのフローの削減、抑制の2本立てになっている。京都議定書ではフローの削減が中心で、今回のパリ協定は、両方の施策を推進していくことになった。

(1) 第1回検討部会会議録（案）の確認（資料1）

【部会長】

- ・委員の皆さんには前回の会議録（案）を修正していただいたが、最終版について何かあるか。なければホームページに掲載していただくがよろしいか。

【委員】

- ・会議録（案）では発言者が「委員」とだけ示されており、誰の発言なのか分からなかった。自分の発言に責任を持って訂正し、他の委員の発言に手をつけないためにも、確認の段階では発言者が分かるようにしていただききたい。

【部会長】

- ・誰の発言か分からないと直しようがないので、それはお願いしたい。他の審議会等でも同様にしていただきたい。

【事務局 等】

- ・そのように対応する。

(2) 緑の基本計画等策定について

現状と課題の整理

- ・緑被の経年変化調査結果（資料 2-1）

【事務局（コンサルタント） 等】 資料 2-1 説明

【部 会 長】

- ・緑被率は衛星データではなく航空写真から判読しているのか。その情報を必ず入れておいてほしい。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・令和 3 年 1 月 1 日に撮影された航空写真を使用している。

【部 会 長】

- ・衛星データとリモセンの方が簡単に比率を出せるが、航空写真がよいということか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・今回は東京都の緑被率標準調査マニュアルに基づいて調査しているので、細かい緑地、樹木、樹林など、10 m²の緑地まで取っている。これらを抽出するには、解像度が細かい航空写真で判読する必要があるので、市より提供いただいた航空写真を使って作業した。

【部 会 長】

- ・緑被率の減少については、宅地化や人口の話（委員参考資料参照）と、緑地保全計画を推進して担保していくという話が、大きな 2 つの柱になる。
- ・2022 年に生産緑地の営農義務が切れるという 2022 年問題があるが、その影響は東久留米市の場合はどうなのか。これは第 3 の要因だと思う。

【委 員】

- ・農業委員会事務局の産業政策課からご説明申し上げる。2 月末が申請期限であり全部出揃っていないが、大きく消失することはないだろうと思っている。2022 年問題よりも相続の問題の方が現れているのではないかと思っている。

【部 会 長】

- ・人口の話と緑地保全計画の執行の話の掛け算だと思う。

【委 員】

- ・4 ページの円グラフで「その他」の割合が意外と多いが、「その他」の内容は調べているのか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・「その他」には空地やグラウンド化している所など、いろいろな項目が含まれており、細部については今後結果をお見せできればと考えている。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・学校の校庭の樹木が2、3本消失している所や、前回誤判読していた所など、細々としたものも「その他」に含めている。

【委員】

- ・道路は含まれているのか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・道路は「その他」に入れている。面積的にはそれほど大きくない。

【委員】

- ・管理のための木の伐採を最近目にする。また、見た目ではあるが屋敷林が減ってきたという印象があるので、これも少し考える必要があるのではないか。

【委員】

- ・5ページの草地についても「その他」が多い。これも同じ要因か。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・こちらの「その他」は、グラウンドや野球場の草地の部分が今回の画像で消失している所であり、それが大きく影響している。

【委員】

- ・学校のグラウンドなどで草地が読み取れなかったということか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・そのとおりである。学校のグラウンドというよりは野球場である。

【部会長】

- ・誤判読ではなく、前は草地であった所が今回はグラウンドになったということか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・野球場の外野の部分が草地になっていることがある。今回判読した航空写真は1月時点のもので冬季ということもあり、草地がよく見えない、もしくは土になっていた所があった。本来は草地として残しておくべきなのかもしれない。

【委員】

- ・具体的な場所はどこか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・具体的な場所については、サンプルのようなイメージで示した方が分かりやすいと思う。本日は用意できず申し訳ないが、改めて具体的な場所のサンプルを示させていただきたい。

【部会長】

- ・前は5月の写真で、今回は1月の写真を判読しているようだが、同じ時点で比較しなければ冬枯れで減少してしまうのではないか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・前回と同時期の航空写真がなかった。

【部 会 長】

- ・同じ時点で比較できないのであれば、その旨を注記で入れた方がよい。

【委 員】

- ・白山公園で草地が大きく減っているが、判読されていないだけで、実際は草地があると思う。グラウンドとサッカー場の草地は抜けているかもしれないが、現地を見ればすぐ分かると思う。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・皆様のご指摘を踏まえて、現地等も含めて確認させていただく。
- ・草地については、減少箇所や消失地となっている所でも、時期により復活する所が出てくると思うので、改めてデータを精査してご報告させていただく。

【部 会 長】

- ・計画の中にいろいろなことを織り込んでいく中に、宅地化や、緑地保全計画の進展などを頭の片隅に置いていただければと思う。

- ・現行計画の進捗状況及び評価と施策の点検（資料 2-2）

【事務局（コンサルタント） 等】 資料 2-2 説明

【部 会 長】

- ・各施策の見直しであるが、中間見直しからそれほど変わっていないので、基本的には今回の変更点を、具体的な個別の目標や施策の中に入れていくということになる。
- ・現在の中間計画とこのリストを見比べて、皆さんの意見等を事務局にお寄せいただいて、次の検討部会で議論ができればよいと思うので、これは宿題にさせていただきたい。

【委 員】

- ・これは非常に重要な資料になる。時間はあまり経っていないが、PDCA に近いものになると思う。
- ・この表の中で分かりづらいことが結構多い。例えば 3 ページの表で「緑地保全計画策定の進捗状況」は「関係者と調整中」、課題点は「上位計画に大幅な変更がないため、改定の必要はないと考える。」とあるが、改定の話と点検評価の話がはっきりしない。点検評価についてあまり記載されていないので、判読に困る。これだけではないが、もう少し見直していただくとよいと思う。

【部 会 長】

- ・ここでは何を言わなければならないかということを中心に踏まえて、皆さんにもチェックしていただければと思う。

【委 員】

- ・上位計画には都市計画マスタープランも入るのではないかと。概要版も広く配られており、関心を持っている市民もいるので、入れていただくと具体的、建設的な意見が出

てくるのではないかと思う。

【事務局 等】

- ・前回の参考資料で関連箇所は配布しているが、都市計画マスタープランはできたばかりなので、事務局の確認がそこまで進んでいない。少しお時間をいただいて確認させていただきたい。

【部 会 長】

- ・資料 2-3 に、都市計画マスタープランのような新たな計画を入れていくための検討資料があるので、先に資料 2-3 の説明をお願いしたい。
- ・新たな関連計画・法制度と見直しの方向（資料 2-3）

【事務局（コンサルタント） 等】 資料 2-3 説明

【部 会 長】

- ・資料 2-2 と資料 2-3 を見て、最終的に計画の文言に落とし込んでいくという流れになる。細かく全部見るのは時間がかかるので、期限を決めて意見をお寄せいただくことにしたい。
- ・文言については、中間見直しの資料集にある「10 関連基礎用語解説」を参照しながらチェックしていただければと思う。

【委 員】

- ・1対1で表の左右を対応させて考える必要はない。例えば東久留米市の長期総合計画では、環境基本計画や緑の基本計画からの言葉を反映しているので、1対1というよりは、相互に関係しているということである。基本は全体をどのように認識するかということが大事である。
- ・グリーンインフラも同じで、これに新たに追加することがあるか、このようなテーマを利用して東久留米市の緑を改善できるのかというように考えていただくとういと思う。

【部 会 長】

- ・SDGs やグリーンインフラのように、これまでやってきた施策に名前をつけるということではないかと思う。
- ・次の資料に全体の章立てと、緑の基本計画と生物多様性地域戦略、緑地保全計画の関係を図に示したものがあるので、さらに概念を深めるという意味で、次の議題に入りたい。

【委 員】

- ・1 ページの施策の体系の中で「14 多様な生きものの保全」が「基本方針 4」の中に入っているが、「多様な生きものの保全」は、生物多様性地域戦略を含んでいるので、格上げして「基本方針」に挙げてもよいのではないか。

【部 会 長】

- ・前回の中間見直しのときに大いに議論したところではあるが、結局、体裁としては緑の基本計画の中に生物多様性戦略がちりばめられている形にして、章立てはしていない。(第2次生物多様性戦略とするならば、)格上化は検討してもよいのではないか。

【委 員】

- ・水と緑の基本計画の調査で現状は見えてきているが、東久留米市の第一条件として必要性、改革、改善、防がなければならないという優先順位はあるのか。
- ・生産緑地が解除されて宅地化され、緑がなくなってくる。これをどのように基本計画に盛り込んで防いでいくのかというのが見えてこない。

【部 会 長】

- ・緑地保全計画などが歯止めの一つになると思うが、事務局はいかがか。

【事務局 等】

- ・環境政策課では緑の保全として緑地保全計画を進めている。また農業振興計画など各種計画で様々な取り組みをしている。これらは並列している部分があるので、ここで明確な順位を申し上げるのは難しい。
- ・それぞれ計画として掲げている目標があるので、それは確認して報告させていただければと思う。それぞれの取り組みについてご説明できればと思う。

【委 員】

- ・緑のデータはかなり出てきていると思うが、水のデータが少ない。例えば湧水河川の湧水量について「かんきょう東久留米」のデータと比較したり、南沢の湧水などで調査している方がいるが、そのデータと突き合せたようなものがあると、水の方もよく分かると思う。

【事務局 等】

- ・「かんきょう東久留米」を毎年度取りまとめており、現在令和2年度版を作成しているが、その中には水の取り組みについて評価している部分もあるので、そこから何かお示しできるのではないかと思います。

【委 員】

- ・ある時点のものは教えていただいているが、長期的に見てどのような傾向があるのか教えていただきたい。雨の降り方も変わってきているので、具体的に考えやすいと思う。

【委 員】

- ・私は川掃除を15年ほどしているが、川掃除をしている1時間半から2時間くらいの間に、通りかかる方々からたくさんの質問を受ける。落合川がきれいだということ、水が少なくなっているということ、魚がいなくなっている、鳥が最近見られなくなっているなどの質問がとても多い。このような方々に配るような資料、チラシが欲しい。

【部 会 長】

- ・東久留米市の浅い所の湧水は、基本的には関東ローム層に溜まった雨水が出ているので、舗装などのランドカバー（土地被覆）が進むと雨の浸透が減少し、湧水も減少する。
- ・川の水がきれいだが魚が少ないという話では、様々な要因があろうが、糞尿や窒素肥料由来の硝酸塩・亜硝酸塩が増えすぎると、水はきれいでも生物がすみにくくなり、魚や水中生物が少なくなれば、それを餌とする鳥も少なくなる生態系の連鎖がよく指摘される。環境基本計画にも「農薬や化学肥料を過剰に使用しない」ということは出ている。
- ・基本的に東久留米市も、宅地や商業地に浸透枿や緑空地を確保するなどの雨水対策を行っている。これは都市計画マスタープランとからむ。農地も雨水の大きな受け皿になっているので、これが縮小されると浸透する雨水の量も湧水の量も減少する。これは農業振興計画とからむ。このように全体のつながりの話になるということを踏まえて、今回の第三次緑の基本計画をどうするのかということにつなげていただければと思う。

【委 員】

- ・現在東京都の方針で、南沢緑地保全地域の林縁部で5 m幅のセットバック工事が行われている。道路際の危険木なども含め、宅地に隣接する部分についてもセットバックしている。以前氷川台緑地保全地域でも行われていて、次は南町の緑地保全地域でも行われる予定である。これによって緑地の面積自体が減少するわけではないが、大径木が何十本も切られているような状況であることを報告しておく。

【部 会 長】

- ・高度成長期は、農地の宅地化に伴って生活の利便性のために道路建設が行われていたが、現在は災害時の対応のために道路を拡幅するなど、別の要因でも行われている。六仙公園は防災公園としての役割もある。
- ・社会的な面や防災面、経済面などのバランスを取るのが長期総合計画の役割であるが、東久留米市は水と緑と土をアピールしているので、自然環境は大事な基礎的な要素である。我々はそれも理解しつつ進めることになるのではないかと考えている。

【委 員】

- ・落合川に魚がいなくなったという話があったが、90年代にはアブラハヤが、2000年代にはタカハヤもいた。現在アブラハヤの仲間は小型化して数も減っているが、ドンコという外来種がそれを餌にして増えているという話がある。
- ・飼えなくなった魚を川へ戻してはいけない、家で育てられなくなった生きものを公園に持ってきてはいけないというようなルールの周知が、東久留米市は他の市町村に比べてないような気がする。これは生物多様性にもつながるのではないかと考えている。

【部 会 長】

- ・それも前回議論された、教育の中に含まれるであろう。これはもう一つの大きなテーマである。

現状と課題を踏まえた計画の検討

- ・第三次緑の基本計画等の構成の検討について（資料 2-4）

【事務局（コンサルタント） 等】 資料 2-4 説明

【部 会 長】

- ・1 ページの下にある、緑の基本計画と生物多様性戦略と緑地保全計画の関係性の図 1 は大変分かりやすいと思うので採用したいと思うが、これだけでは長期総合計画や環境基本計画との関係が見えないというリスクがあるので、全体の関係をきちんと踏まえた上で示した方がよいだろう。

【委 員】

- ・この図 1 には少々疑問があるので、採用するかどうかは今決めなくてもよいと思う。緑地保全計画は緑の基本計画のいわば裏番組のようなもので、最後の砦のようになっている。だから、この図の示し方は少し違うと思われる。
- ・動物だけでなく緑も生きものであり、非常に関係性が深い。関係性が深いものをどのように整理するかをきちんと議論しておかないと、先ほどの図のように分解する方法では、うまくいかなくなる可能性が高い。生きものを植物以外のものに限定とか、何かしないと難しいのではないか。
- ・いろいろな上位計画があることを気にしているが、一番大事なのは今の緑の基本計画と生物多様性戦略の課題が何なのか、今後どうしなければならないのか、いろいろな状況変化にどのように取り組むのかということである。それで初めて第 2 次と第 3 次の計画が生まれるのである。そこが今日の説明資料ではよく分からない部分もあるので、皆さんで噛み砕いていただいて、この課題と方向性を整理した上で次回議論されるとよいのではないかと思う。

【部 会 長】

- ・生きもの定義については、前回の中間見直しのときに大いに議論し、中間見直しの 2 ページに入っている。「緑」を雑木林や街路樹・公園・農地など、「水」を湧水や河川などの生物の生息域を示し、そこに棲む、植物・動物、昆虫等を「生きもの」と表記します」これが中間見直しの生きもの定義であるが、変える必要があれば変えればよいし、必要なければこのままでよいということだと思う。
- ・先ほどの関係図の採用は気が早いというのは、計画を市民の皆さんにイメージしてもらうには良いのではないかという理解であった。基本的には、中間見直しの 2 ページの「施策の関連図」（委員参考資料も参照）を踏まえ、皆さんもご検討いただければと思う。

【委員】

- ・生物多様性は自然環境の循環型である。そこから要求される基本計画、そして保全計画という流れではないのか。

【委員】

- ・高橋委員がおっしゃっているのは、生物が絶対で、そこに緑の基本計画があり、さらに緑地保全計画があるという意味であろう。

【委員】

- ・考え方として基本計画が先になっている。その基本計画をどうして立てなければならないのか。それは生物多様性の根源たる自然環境があるからである。それを理解して噛み砕かないと基本計画も緑地保全も生まれてこないと思う。

【部長】

- ・おっしゃるとおりだと思うので、それも踏まえていただければと思う。

(3) 生きものモニタリングについて

- ・生きもの調査結果及び前回調査結果との比較（資料 3-1）

【事務局（コンサルタント）等】 資料 3-1 説明

【部長】

- ・前回と今回の調査結果で増えたり減ったりしたものがあるが、調査をした時点でたまたま多いとか少ないとか、調査手法による影響はあるのか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・おっしゃるとおり、それは大きく効いていると思う。調査範囲は概ね決まっているが明確な範囲はなく、調査地点や調査時期でもずいぶん変わってくると思う。例えば河川沿いで、草刈りなどの管理をしている所などでは変わってくる。
- ・長期的にモニタリングをするのであれば調査手法を統一する、例えば定点を決めるとか、定量的に測るような調査をするというような視点で考える必要があるのではないかと思った。

【部長】

- ・昆虫とか動物は動くので偶然の要因も強いと思うが、植生はある程度固定されているので、その変化をベースに踏まえるということだと思う。
- ・今回と前回の比較をして、概要でよいので5年間の変化を教えていただきたい。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・河川沿いでは減っているということがあった。場所によって昆虫類が減っている所もあれば、あまり種数が変わらない所もある。まだ全体をつかみきれていない状況であるが、特に川などの水域で外来植物が増えている印象がある。

【部長】

- ・時間の関係でこれも委員の皆さんに見ていただいて、疑問や質問があれば、事務局と

はまだ打ち合わせていないが、2月25日くらいまでにこれまでの内容も合わせて事務局にお寄せいただくということでしょうか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・細かいところをご覧いただき、まとめ方についてもご意見をいただければと思う。魚類の目録も示しているが、一回の調査なので、「こういうものがあるのに確認されていない」ということもあると思う。

- ・指標種等の見直しについて（資料3-2）

【事務局（コンサルタント） 等】 資料3-2 説明

【事務局 等】

- ・部会長から2月25日までにとのご提案があったが、資料の見づらい点や漏れがあったものを善処してお送りするので、それをご覧いただき2月25日までにご意見等をいただくという形でよろしいか。

【委 員】

- ・25日がよいかどうか、現時点では返事できない。

【事務局 等】

- ・日程は部会長と確認させていただく。

【部 会 長】

- ・次回の検討部会は3月であるが、事務局で取りまとめる時間等を織り込んで、適当に2月25日と申し上げたので、それは事務局と打ち合わせをしてご案内させていただく。
- ・皆さん専門の方々なので精査していただきたい。それが基礎になるので、ぜひチェックをお願いしたい。

【委 員】

- ・指標種等は市民の方などからデータ共有はされているのか。呼びかけのようなことはしていないのか。

【事務局 等】

- ・コロナ禍で外出の自粛などがある中で、広報してよいものかというところもあり、積極的には呼びかけていないのが現状である。

【委 員】

- ・そうなると、見直しはしてもしなくても一緒ではないか。

【事務局 等】

- ・コロナの状況もあり、積極的に声かけができていないということも状況的にある。ご提供いただいた写真などはあるが、数は多くない。
- ・前回の計画を作ってからまだ5年経っていないが、今の指標種を継続するということも考え方の一つなのではないかと思う。ただ、5年に1度の調査をする中で、指標種

に変化があるのかどうかを見ていく必要があると思うので、結論ありきではなく、状況を見ながら進める部分もあるのではないかと考えている。

【委員】

- ・事前に資料をメールなどでもらうことはできるのか。1回目の時に、資料が欲しいとメールを差し上げたがいただけなかった。メールで送るには容量的に問題があるのか。

【事務局 等】

- ・容量によってはメールでお送りできないものもある。なるべく事前に見ていただけるように対処の方法を考える。

【部 会 長】

- ・委員の皆さんはきちんとされている方々ばかりで情報管理は問題ないので、印刷したものを郵送するなど臨機応変に対応していただければと思う。
- ・5年で見直すという話について、植物は気候や日照の関係で出たり出なかったりすることもある。タイムスパンが短い、5年間でよいのかなど、皆さんからもご意見をいただければと思う。

【委員】

- ・調査によって何か変わった部分や良かった部分が見えてきたら、この目次構成(案)でいうと「第1章 4水と緑と生きものの現況」の中に数字的なもので示すことができれば、よりつながりが良くなるのではないかと思った。

【委員】

- ・配布資料 2-2のうち、「現行計画の進捗状況及び評価と施策の点検について」であるが、内容の一部の事項について、担当として課題（朱書）としたものがある。次回、本件内容について議論する際に、ご説明させていただく。

(4) その他

- ・次回の日程について（参考資料）

【事務局 等】 参考資料説明

【部 会 長】

- ・これで今日の会議は終了する。今回はオンラインで会場の收音マイクでは声が聴きづらいことや、オンライン同士でも聞き取りにくいことがあったので、3月は対面で開催できることを祈念する。コロナ禍の中、またご多忙の中ご参加いただき感謝申し上げます。事務局より追ってスケジュール等のご案内をさせていただくので、よろしくお願い申し上げます。

以 上